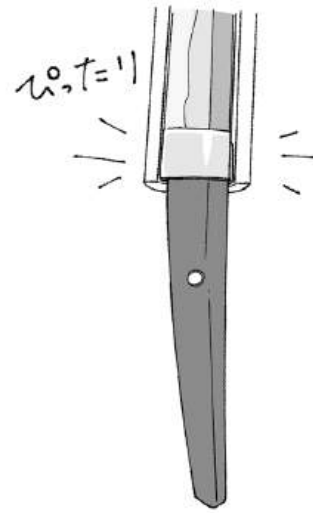
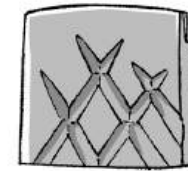


鍔 はばき

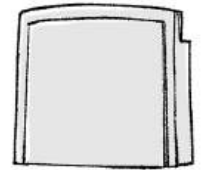
とうしん さ こ はまち むねまち あた おお かなぐ
 刀身に差し込み、刃区・棟区辺りを覆う金具。
 さや うちがわ とうしん ふ きず
 鞘の内側に刀身が触れて疵などが出来ないよう
 こてい せっぱ つば うご
 に固定するもので、切羽・鐔を動かないように
 しょうげき きゅうしゅう やくわり
 したり、衝撃を吸収したりする役割もある。



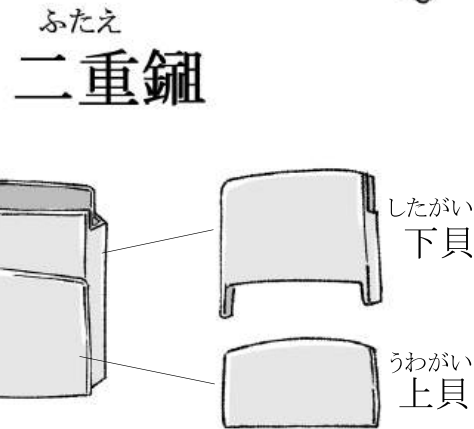
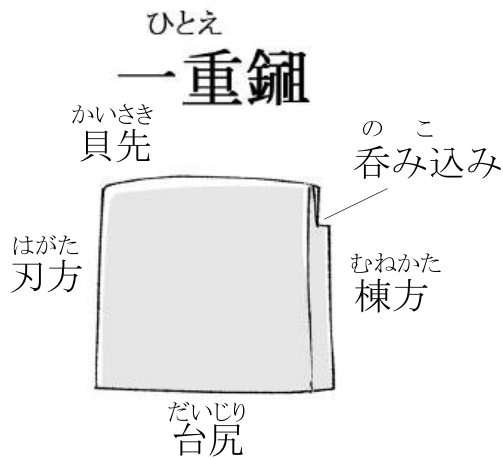
くにはばき
お国鍔 かくくに つく とくちょうてき
 各国で作られた特徴的な鍔 ※一例です。



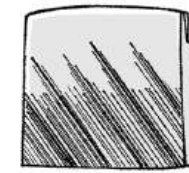
かしゅう かがのくに
 加州鍔(加賀国)



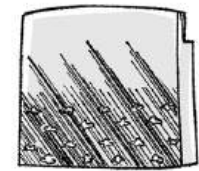
おおさか せつつのくに
 大坂鍔(摂津国)



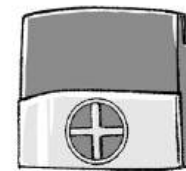
いしょう
意匠いろいろ



こしゅうじょうやすり
 腰祐乗鍔



ぼたんじょうやすり
 牡丹祐乗鍔



すか
 透し



へんけい
 変形



がんせきやすり
 岩石鍔

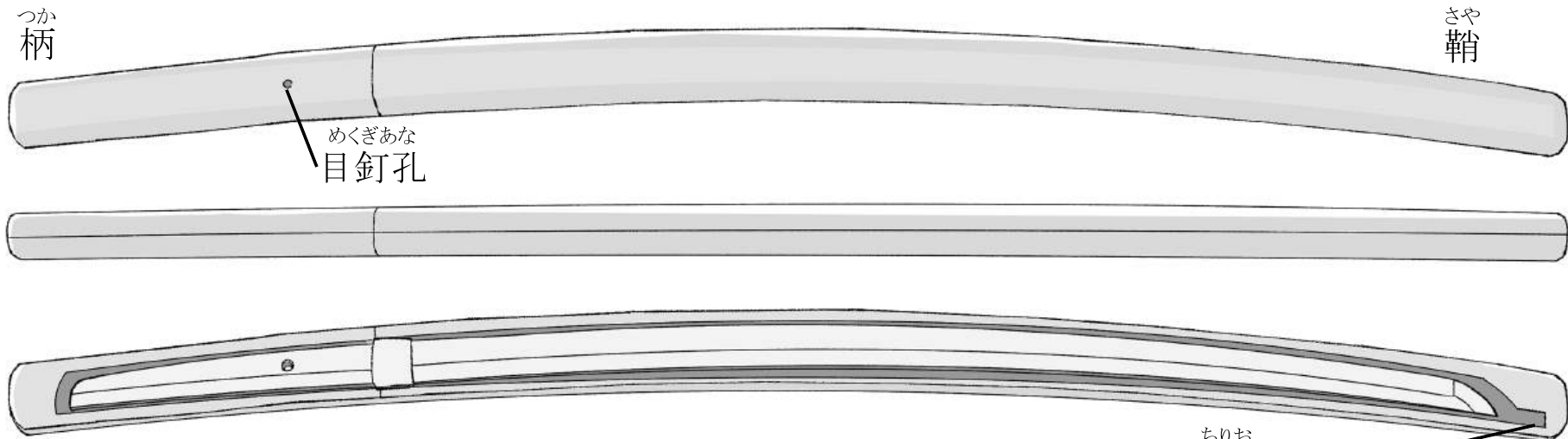
見どころ

- ぜんたい かたち 全体の形(一重か二重か、角や曲線などが決まっているか、かたな ひ た 刀を引き立てるような形かなど)
- やすり ほりもの いしょう 鍔や彫物などの意匠



白鞘 しらさや

うるしぬ 漆で塗らず、しらき 白木のまの 刀の鞘のこと。「休め鞘」とも言われ、^{かたな さや やす} 拵(装飾品のついた鞘)の損傷を防ぐために
 刀を入れて保管する「パジャマ」のような存在である。材料には、油脂が少ない・変形しにくい・適度に柔らかい
 ・吸放湿のバランスが良いなどの特性を持つ「朴の木」が用いられる。また、^{ほかん} 柄(手に持つ部分)と^{そんざい} 鞘(刀身が収まる部分)はそれぞれ表裏2つのパーツを^{ぎいりよう} 続飯(お米をつぶした糊)で^{ゆし} 接着しており、^{へんけい} 鞘の内部に^{てきど} 問題が起きた場合^{さや どうしん おさ} に^{きゅうほうしつ} すぐに^{とくせい} 割って^{ほお} 修理出来るようになっている。



見どころ

- 刀にあわせた自然な曲線になっているか。^{しぜん きょくせん}
- 柄と鞘の^{つな} 繋ぎ目、表裏の繋ぎ目がピッタリ合わさっているか。
- 使われている木材の色や質感、木目の様子など。^{もくざい しつかん もくめ ようす}

^{ちりお} 塵落とし
 お ちり あぶら た
 落 ちた 塵や油がここに溜まることで
 どうしん ふ こうぞう
 刀身に触れないようにするための構造。



アンケート実施中
 ご意見・ご感想をお聞かせください。